

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第2号 水 稲 (震災対策)

発行日 平成23年 4月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 海水の流入があった圃場は十分な除塩を実施したうえで作付けを行ってください。
- ◆ 除塩を実施した圃場で作付けをする際は圃場を乾かさないように注意し、除草剤は活着を確認した後で散布してください。
- ◆ やむを得ず移植時期を遅らせる場合は育苗日程を遅らせるなどの対策をとりましょう。
- ◆ 農道の路肩に崩れがないか等点検し、農作業事故を未然に防ぎましょう。

1 海水流入と除塩対策実施圃場での作付け上の注意

海水の流入があった圃場は地域の普及センターの指導をもとに除塩対策を実施しましょう。作付けは十分な除塩対策を実施したうえで行います。作付けにあたっては以下の点に注意してください。

なお、移植時期が適期より遅れる場合は「2 移植時期を遅らせる場合の注意」を良く読んで行ってください。

(1) 水管理

海水の流入のあった圃場は生育時期によっては落水等で塩害発生の恐れがあるので、水管理に注意をします。

ア 移植から分けつ期に塩害の影響をうけると葉先の変色、下葉の枯死や分けつが抑制されます。この時期での浅水管理は塩害を助長する恐れがあるので通常よりやや深水管理とします。ただし、極端な深水管理は分けつの発生を抑制するので避けてください。

イ 同様に、中干しも塩害を助長する恐れがあるので避け、間断灌漑で対応しましょう。

ウ 幼穂形成期から開花期は最も塩害の影響を強く受ける時期です。この時期に塩害の影響を受けると出穂期の遅延、籾数の減少、不受精籾の増加で減収となります。幼穂形成期以降は常時湛水とし、登熟期での早期落水を避け、適期での落水に心掛けましょう。

(2) 施肥

中干しが行えないため、過剰生育とならないように基肥の窒素施用量は、地域、品種の標準施用量よりも1kg程度減らしてください。

(3) 除草剤の使用上の注意

塩害の影響で根の発育が抑制され活着が遅れることから、除草剤の散布は移植後使用適期内での遅めの施用とします。砂の流入等で水もちが悪いところは湛水深に注意し、剤型は粒剤のものを選択します。フロアブル剤、ジャンボ剤は効果が劣るので使用をさけてください。

移植後葉先枯れ等が見られた場合には除草剤散布前に真水による掛け流しを行ってから散布してください。

(4) 水の入れ替え

海水の流入のあった圃場は塩害と根腐れ防止のため定期的に水の入替えを行いましょう。

2 移植日を遅らせる場合の注意

圃場の補修、除塩作業によって適期に移植が出来ず、やむを得ず移植作業を遅らせる場合は移植可能晩限（表1）を考慮したうえで浸種、育苗作業等の作業計画を決めましょう。

表1 水稻移植可能晩限

	いわてっこ			あきたこまち			ひとめぼれ		
	稚苗 2.5	中苗 3.5	成苗 4.5	稚苗 2.5	中苗 3.5	成苗 4.5	稚苗 2.5	中苗 3.5	成苗 4.5
県北 軽米	5月24日	5月29日	6月3日	—	—	—	—	—	—
久慈	5月24日	5月28日	6月3日	—	—	—	—	—	—
紫波	—	—	—	6月1日	6月4日	6月8日	5月25日	5月30日	6月1日
北上	—	—	—	6月12日	6月16日	6月19日	6月9日	6月12日	6月14日
内陸 江刺	—	—	—	—	—	—	6月6日	6月10日	6月14日
一関	—	—	—	—	—	—	6月12日	6月14日	6月17日
小本	—	—	—	5月13日	5月18日	5月23日	—	—	—
東部 山田	—	—	—	5月20日	5月25日	5月30日	—	—	—
釜石	—	—	—	6月5日	6月8日	6月12日	5月29日	6月1日	6月7日
大船渡	—	—	—	6月15日	6月18日	6月22日	6月10日	6月14日	6月16日

注)アメダスと日平均気温平年値をもとに、移植時期の限界とされる出穂後40日間の積算気温760℃を確保できる最も遅い移植日を品種、苗質毎に算出した。なお、移植適期は出穂後40日間の積算気温840℃以上を確保できる日としている。

注)内陸、東部の成苗は参考までに記載した。

(1) 育苗

移植時期にあわせて播種時期を遅らせる等の対策が必要です。

ア 苗を稚苗から中苗、成苗にすることで育苗日数を延長することが可能です。表2を参考にしてください。苗の種類を変更するときは「播種量」「移植時期」「苗追肥」「移植時の苗の掻き取り量」に注意します。

表2 苗の種類別播種量・育苗目標

種類	播種量の目安 (乾籾g/箱)	育苗日数 (日)	葉齢 (葉)	草丈 (cm)	使用箱数 (箱/10a)
稚苗	150~180	20~25	2.0~2.5	12~14	18~22
中苗	100~120	30~35	3.5~4.0	13~15	33~35
成苗	80以下	40以上	4.5~5.5	15~18	40~45

イ 育苗時期を遅らせた場合、育苗期間の温度が高くなりやすいので、苗の徒長や細菌病が発生しやすくなります。気温が高い日は夜間も開放するなど、育苗ハウス内の温度管理に気をつけてください。

ウ 育苗の後半で苗が黄化してきた場合は追肥を行います。硫安等の肥料で窒素成分1g相当量を500ミリリットルの水に溶かし1箱に散布します。散布後に水をさっとかけて、葉上の肥料を流します。

エ 草丈が18~20cmを超える場合は地上から12~13cmを残して剪葉します。このときなるべく

新葉を損傷しないように注意してください。

(2) 施肥

移植時期が遅れたことで水田圃場の地力の発現が早まります。基肥の窒素施用量は、地域、品種の標準施用量よりも1kg程度減らしてください。生育期間中は葉色等に注意し、葉色が極端に低下したり生育が劣る場合は幼穂形成期前での追肥を行う前提で基肥を減らします。

除塩等を行った圃場でも土中に残った塩分の影響により中干しを強く行えないため、過剰生育とさせないためにも基肥を減らす必要があります。

(3) 移植時の栽植密度

有効茎確保のため移植時の栽植密度は標準の70株/坪からやや多めの80株/坪としてください。

(4) 防除

雑草防除、病虫害防除は従来通りの管理を基本とし、葉色が濃く経過した場合はいもち病等の発生に注意し、必要に応じて追加防除を実施します。

海水が流入した圃場での雑草防除は苗の活着を確認してから除草剤散布を行います。

(5) 水稻が作付けできない場合

用水の確保ができない等で水稻が作付けできない場合でも大豆、そば、小麦等の作付けが考えられます。作付けにあたっては最寄りの農業改良普及センターへご相談ください（各普及センターへの連絡は<http://i-agri.net/agri/map.php>を参照してください）。

3 その他

育苗施設の破損等、苗の確保が困難な場合は直播栽培での作付けを検討しましょう。直播栽培については中央農業改良普及センター県域グループか最寄りの農業改良普及センターまでお問い合わせ下さい。

春の農作業安全月間実施中！ [4月15日
~6月15日]
農作業 無事故でつなぐ 明るい未来

次号は5月26日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。